

## 陸上自衛隊 V-22 オスプレイの今後の運用に関する要望

平素、館山市政の推進につきまして、格別なる御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国の防衛と国際平和のために、日本のみならず、世界各地で日々活動されている自衛隊の存在は、日本国民にとって大変心強いものとなっております。

令和元年房総半島台風に際しては、自衛隊の皆様が、物資輸送や入浴支援、被災家屋の応急処置等に、全力で取り組まれていたことは、深く記憶に残るところです。

あわせて、全国で頻発する大規模自然災害への対応に臨まれる皆様の献身的な活動に、深く敬意を表します。

さて、このたび木更津基地に暫定配備されている陸上自衛隊 V-22 オスプレイが、操縦士の練度維持のため、館山航空基地（飛行場）において、離着陸訓練及び計器進入訓練を実施する予定とのご説明がありました。

館山市としては、以下の4点について要望いたします。

1. 対外的な発表及び説明については、他の飛行訓練先とタイミングを合わせ、北関東防衛局からお願いしたい。
2. 当面の間、漁業への配慮のもと海上のみの飛行とし、可能な限り民家の上の飛行や夜間の飛行は控えていただきたい。また、機体の安全性への信頼が確保され、市民の不安が解消されるまでは、海上からの進入・離脱に限定し、陸上の飛行に向けては、段階を踏んでいただきたい。
3. 館山航空基地に飛来する機数や回数、期限をお示しいただきたい。
4. 市民の不安を払拭するため、機体の安全性に関する客観的な根拠及び騒音に関するデータを御提示いただきたい。

つきましては、上記事項について特段の御高配を賜りたく、ここに要望いたします。

令和3年7月13日

千葉県館山市長 金丸 謙



防衛省北関東防衛局長 扇谷 治 殿